

令和5年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
第2回地域包括支援に関する会議 会議録

1 開催日時

令和5年11月1日（水） 18:30～20:10

2 開催場所

北九州市役所 3F 特別会議室A（ハイブリッド開催）

3 出席者等

（1）構成員

安藤構成員、石田構成員、伊藤構成員、今村構成員、大丸構成員、後藤構成員、
白木構成員、杉本構成員、中村構成員、平川構成員、森野構成員、油布構成員

（2）事務局

地域福祉部長、長寿社会対策課長、地域福祉推進課長、地域支援担当課長、
介護保険課長、介護サービス担当課長、認知症支援・介護予防センター所長

4 会議内容

（1）報告

・令和4年度「まちかど介護相談室」実施状況について 資料2

（2）議事

・地域ケア会議の実施状況について 資料3

・次期高齢者プラン（試案）について 資料4

5 会議経過及び発言内容

報告（1） 令和4年度「まちかど介護相談室」実施状況について・・・資料2

事務局 報告（1）について、資料2に沿って説明

代表 それでは構成員の皆様方から質問やご意見ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。全般的には相談件数が伸びていったという状況だと思いますけれども。

特にないようでしたら、次に進めさせていただこうと思います。

議事（１） 地域ケア会議の実施状況について・・・資料3

事務局 議事（１）について、資料3に沿って説明

代表 それでは質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

構成員 先程の地域個別ケア会議等について、ケアマネジャーさん、主任ケアマネジャーさんたちの、会議の中で、資料の提出の負担感だとか、準備に結構、居宅の方々の負担がかかっているということの意見が出てきました。また、内容が少し形骸化しているのではないかとのご意見もありました。

先程、かなり準備だとかいうところも、合理的にできるようになってきたということをご報告がありましたので、その点について、現場のケアマネジャーさんたちの負担感、事前の準備だったり、そういったところについてご配慮いただくとありがたいな、というふうに思っております。

代表 要望ということでもいいですね。

構成員 結構です。よろしくお願いします。

代表 その他いかがでしょうか。

構成員 個別課題解決の会議が、かなりの数上がっている中で、お示しいただいた地域課題発見の会議事例は、地域包括ケアシステムの深化が伺えます。高齢者の住み方も、住む場所も、多様化している中で、地域と交流する繋ぎ役は誰かといったことが、必ず個別の地域ケア会議でも課題に出ると思います。特に、事例に挙げられている住まい・終活と空き部屋の課題対策や、施設入所者の地域交流を地域に周知していく上で、民生委員さんたちがサロン情報を施設に届ける等の視点が地域ケア個別会議の中で生かされてくるのが、地域ケア会議の機能が、非常に推進しているなという、非常にいい報告をいただいたと思いました。

代表 これもお褒めの言葉ということでいいでしょうか。

構成員 はい。

代表 このほか、いかがですか。ございませんか。

では、私の方から。地域ごとの計画がかなり盛んに作られるようになってきたということなのですが、何か地域ごとの特徴というのが出てきた。つまり、地域ごとの状態に合わせた計画ですから、その計画の特徴というのは、何か見えてきているのでしょうか。

構成員 そうですね、今、お話がありましたように、例えば門司の方なのですが、コンビニが閉鎖したといったところで、買い物に困っている高齢者が多いというような話が、この策定委員会の中で出てきて、具体的に、社会福祉施設と連携して買い物支援サービスを新たに生み出した、というような地域もございます。社会福祉、そちらの方は知的障害サービスの施設なのですけれども、知的障害の方々が代わりに買い出しに行き、宅配までするといったところで、そこで高齢者との交流が出来るというような、新たなサービスまで作り出したところもございます。どうしても、話し合う中で、今、孤独孤立の話であるとか、それから空き家の問題も出てくることもございまして、今のように買い物に困っているといったところで、施設の方が例えば買い物バスを出そうというような解決策が出てきたり、地域の方でそういった話も出てきている例もございます。以上です。

代表 色んな人の工夫っていうのを、もっと情報共有していくということも、とても重要ななと思いました。ありがとうございました。

特にならなければ、進めさせていただこうと思います。

議事（２） 次期高齢者プラン（試案）について・・・資料４－１～４－９

代表 それでは議事の２番目になります。次期高齢者プラン試案について、事務局の方から説明をお願いします。

事務局 議事（２）のうち、次期高齢者プランの目指すビジョン、強化が求められる視点等について、資料４－１に沿って説明

代表 今回の説明について、いかがでしょうか。全体の骨子になるかと思います。

構成員 「次期高齢者プラン目指すビジョンとその達成に向けた目標（案）」のところで、真ん中のところの「つながり支えあう」のところです。北九州市の他の障害者の施策や地域の地域福祉の施策との整合性ということも、やっぱり考えていかなくちゃならないというのは、もちろん検討済みだろうと思いますが、そういったことの整合性が重要になってくるのではないかということの意見と。

どこかでお話をしたかもしれませんが、地域の支え合いの支援のソーシャルキャピタルというふうな言葉が、我々の業界人ならば、ある程度通じるのかと思いつつながら、信頼だったかな、規範とかなんかそんなことだったと思いますが、そういったことがプランに出てきて、理解が促進されていけばいいのでしょうか、どこか注書き等があった方が繋がりやすいかと。大切なことですので、非常にこれでよろしいと思うのですが、そういった丁寧な説明があった方が、より理解が深まるのではないかと思いますので、意見です。以上です。

代表 一つは計画との整合性、それからもう一つは「ソーシャルキャピタル」この言葉について、多少分かりやすい説明がどこかにいるのではないかと、ということです。

事務局 今回、この高齢者のプランに合わせて、健康づくりプランとか、障害者の計画とか、合わせて何本か作成予定です。そのあたりについては、一番上、上位計画の市のビジョンも、現在、作っておりますので、それと合わせて、整合性を取っていくということで考えております。

それから、ソーシャルキャピタルをはじめ、他にも、ちょっと分かりにくいとか、一般の方にはちょっと取っ付き難い言葉というのは出てくると思うので、できるだけ本文の中は分かりやすいように書こうとは思いますが、後ろにきちんと用語集のようなものを付けることを考えております。

代表 用語集については、毎回付けてくださっているのだから、あれはとっても良いかなと思います。その他、いかがでしょうか。

構成員 先程の今村構成員がお話をしていた表中の「自分の意思で自分らしく、住みたい場所で安心して暮らせる」の中で、「地域包括ケアシステムの深化・推進」

のところ、「介護保険の適切な運用」の下に、「介護人材確保、質の向上」とあります。ここで、介護職のイメージアップ推進であったり北九州モデルの普及であったり、外国人の活用に向けた支援ということが書かれていますが、北九州モデルの普及は、具体的にどういったことを指すのでしょうか。

あと、人材確保は喫緊の課題なので、「介護保険の適切な運用」における優先順位ではないと思わないですが、もう少し上位の目標でもいいのかなと思います。その点についてご説明いただけるとありがたいです。以上です。

事務局 まず、「介護人材確保」がこの場所にある意図、大きく言うと福祉人材確保になろうかと思いますが、介護サービスの需要が伸びる中で、介護事業の運営の制約にならないように、という意味で、ここに置いていますが検討の余地はあろうかと思います。

人材不足は、今年度に入ってから、介護に限らず色々な文脈の報道が出ており、外国人材については、ある論文で、他の国に円安で競り負けるのではないか、など、ネガティブな話も多いです。

介護サービスに関しては、介護の仕事の魅力発信と言いながら、茫洋としているところもありますので、例えば、教育現場から、「進路としての介護の仕事」であったり、生活困窮者対策を含め「仕事を作るという意味での介護の仕事」、例えば介護助手であったりと、具体的な絵を描ければいいなと考えています。今後、介護人材確保の事業として、色々取り組んでいきたいところです。

先進的介護システムにおける「北九州モデル」に関しては、担当課の出席がありませんが、僭越ながら説明すると、施設の合理的な運営、特にICT機器を活用した働き方の展開について、現在策定中の「新ビジョン」の中では、市内外、広くは国外まで展開したいという考えもあるようです。

「北九州モデル」を明確にして、そのノウハウを色々なところに展開することで北九州のブランドイメージを作る、都市の格を上げる、というところで動いている、と聞いております。又聞きレベルのご紹介ですけれども、私からは以上をお伝えさせていただきます。

事務局 一点だけ補足でございます。先程言いました介護人材については、非常に重要なテーマだというふうに私たちも思っています。今回のビジョンの中で、特に3番目の柱、選べる自由が感じられる、自己決定ができる、在宅サービスも施設サービスも選ぶことができる、それを高齢者の状態像の中できちっと選ぶことができる。そのためには、そのサービスを支える、基盤である介護人材をしっかり

り確保していく必要があるということで私どもは位置付けております。そういった意味では、多彩なケアを市民が選ぶ、そのための基盤の重要なテーマだというふうに、基本的には認識しているというところでございます。

構成員 今のご回答なのですが、一つには私ども、弊社もすでに外国人の方に入っ
ていただいているのですが、それについては、かなり事業所側の負担というのが、
結構経費的などころの負担もある中で、積極的な活用だとかいうことであれば、
やはりサポート的などころはどうなのかということ。

それから、今、私たちも全国的にケアマネジャーの不足について調査をしている
のですが、ケアマネジャーの7割が辞めたいと思っているという現状があるの
ですね。やりがいはあるのですが辞めたいというところの現状があり、その根本
には、やはり報酬が低い、いわゆるケアマネジャーの給与が低い。300万から
350万の方々が回答の6割ぐらゐを占めているという状況の中で、魅力的など
ところについては、やはり介護人材も重要なのですが、ケアマネジャーがい
なくなってくると在宅サービスも回って来ませんので、そういったところでは、
積極的なアピールや後方支援ということをお願いしたいと思います。

これは要望です。以上です。

代 表 その他ございますか。

構成員 言葉の使い方ですとちょっと気になるところがあるのですが、分野別会議のと
ころで「オーラルフレイル改善への啓発強化」とあるのですが、改善ではなくて
予防に取り組まれるべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

事務局 構成員が言われるように、オーラルフレイルそのもの、口腔ケアは、予防
することによって次に発展しない、病気に発展しないということがありますので、
おっしゃる通りだと思います。分野別の会議における意見の書き方については、
次、出す時には考えたいと思います。

代 表 その他いかがでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、少し中身に繋がったほうがいいのではないかと思います。

事務局 議事(2)のうち、主な取組みと計画書の内容について、資料4-2~4
-8に沿って説明

代表 それでは、ご意見を頂戴したいと思います。まず、2のオレンジ色のところになりますけど、「人のつながりが幸せや安心を生む支え合いの地域づくり」この施策の方向性、さらには施策、取組が並べてありますけれども、この辺りについていかがでしょうか。

内容的には、ふれあいネットワーク活動、社協絡みのところがありますので、杉本構成員に一言お願いしたいのですが。

構成員 この辺、市の方も力を入れてくださるということで、非常にありがたいところではあるのですが、正直なところ、今、地域の方もなかなか高齢化が進んでいて、なり手がいないというか、ご協力いただける方もどんどん高齢化しているというのが現状のところ、私どもの方も非常に頭を痛めながらやっているという現状があります。

あと、多様な主体による居場所づくりのところも、私どもの方で今、進めているのですが、これも今、市の方から補助金をいただきながらやっているのですが、やっぱり財源の問題もあり、かといって、手がどんどん上がっているのですが、あまり正直、大きな支援にもなってないところで、悩みながらやっているというところがございます。

その辺も、市の方がどう考えられて、この辺を強化されようと思ってらっしゃるのか、何かお考え等があれば聞かせていただければな、というふうに思います。以上です。

代表 なかなか地域の厳しい状況の中で、市としてはどう考えていくのか、という難しい質問です。

事務局 そこのところは、すごく課題で、この本文だと55ページの上ですが、3点目「多様なつながり力を生む地域づくり」というところで、やはり地縁の組織の力がだんだん高齢化とか新しい担い手不足で落ちているという現状があります。あと、我々の現役世代は、お金を払ってサービスの提供を受けるという価値観がすごく馴染んでいて、助け合いをすとかいうことは、少し遠く感じている方も多いのではないかなと思っています。

なので、そういう今まで助け合いというのに距離を置いているというか、やりたいけど出来ないみたいな方を、助け合いの大切さをアピールしたいということで、先程、今村構成員が言われたソーシャルキャピタルという概念も新しく使い

ながら、そういった色々な繋がりを持っているということが、個人の人生もすごく豊かにしますよということと、もう一つ、助け合いとか、信頼に基づく関係性、これがすごく社会全体の基盤になりますよ、というようなところで、そういった多様な繋がり方、助け合い、そこが大切だということを、何とか新しい中で打ち出していきたいと、今、模索しているところです。ソーシャルキャピタルということも、そういった文脈で、うまくPRしていければいいかなと思っています。

あとは、やはり地縁団体だけだと苦しいところがあって、やっぱりNPO団体とか、かなり、今、テーマ性を持った団体とかも増えていますので、そういったところとうまく連携できるような形。そういうのを、例えば地域支援コーディネーターが間に入って、地域に色々な人が関わることで、地域が元気になる。そういう形を、まさに、杉本部長とも一緒に考えながら作っていければなあと、一歩ずつやればなあと考えております。以上でございます。

代 表 その他ございませんでしょうか。

この「ウェルビーイングを創出する人材の育成」この言葉も格好がいいのですが、すごくイメージしにくい言葉かなということを非常に思っています。少し、具体的に落とし込んだ説明があるかなと思います。何となくは分かるのですが。

その他いかがですか。とりあえず、全体行きましょうか。それで、もし何かありましたら、もう一度戻るということで。

それでは「尊厳のある自分らしい暮らしを守る権利擁護支援の推進」ここについていかがでしょうか。

構成員 今、読ませていただいています、個人的には、この目標と推進というのは、大変前向きで、我々専門職の立場から見てもありがたいものだと思っています。

成年後見制度自体は国の制度なので、なかなか市の方で自由にできない部分もあると思うのですが、中核機関を中心に機能強化をしていったり、啓発をしていったりして、制度を知ってもらって協力をより深めていただくという目標を出していただいていることについては、大変、素晴らしいと思うのですが、具体的に色々考えると、どんなことができるかと思うところがありますが、目標としては、素晴らしいと思いました。私からは以上です。

代 表 何かコメントございますか。

構成員 意思決定支援の部分に関しましては、しっかりと対応していくと明記されるということは、安心感に繋がると思っていますので、よろしいといえますか、このような感じでよろしいのかと思っています。以上です。

代表 自らの意思で、ということ大きな目標に立てていますので、重要なところかなと思います。

その他ございませんでしょうか。ちょっと先に行きます。

「介護者（ケアラー）のサポート」ここについてはいかがでしょう。

構成員 まずケアラーのことなのですが、ヤングケアラーが、今、非常に問題になっているかと思っています。ウェルとばたの方でも窓口が開いているのですが、なかなか人が集まってないということで、若い方とか実際にケアをされている方が相談するということが非常に厳しいのかと思っています。

例えば、ヤングケアラーの場合は、教育委員会との連携はやられているのでしょうか。それと、どこが優先的に、積極的にされているのか、イニシアティブを取られているのかが分からないので、そこを教えてください。

代表 ヤングケアラーはどこが、という質問でした。

事務局 ヤングケアラーは、子ども家庭局の方が主管になっております。また、関係課長が集まって、情報の提供や共有をする会議も行っております。

事務局 補足です。今、ヤングケアラーということで、子ども家庭局が中心に動いていますけれども、私どもというか全国どこもそうなのですが、重層的相談支援ということで、いかに福祉の相談窓口が連携して一つの事象に対して、複数の窓口がどう一緒に関わっていくかということ、今、やりかけているところです。

現在、門司区と八幡東区でモデル事業をやっているのですが、将来的には7区全体でその事業を広げていきたいというふうに思っています。その中で、今日も出ているようなヤングケアラーの問題は、もちろんヤングケアラーの相談窓口であるウェルとばただけではなく、区役所の子ども家庭相談コーナー、そして高齢障害の相談コーナーであるとか、地域包括支援センターとか、そういったものが一丸となってですね、対応できるような、そういうような相談システムを作っていこうというふうに考えているところです。以上です。

代表 今のお話は、窓口がたくさんあって、集約もされるんですね。

事務局 そうですね、窓口そのものは基本的には場所、ハード的な場所はそれぞれですけれども、そこで上がってきた相談で、これはチームとして解決しなくてはいけないというのは、すべてを集めて、そこでケアカンファしていくという形になると思います。

事務局 ヤングケアラーの話なのですが、地域包括支援センターもヤングケアラーを発見する可能性の高い部署ということもありますので、包括に関わる家族、世帯の中で、孫が祖父母のお世話をしているとか、障害のある母親のお世話をしている子がいるとか、そういうのを発見した場合、もちろん介護負担の軽減でサービスを入れていくこともするのですが、その子ども自身の相談を受けてくれる場所として、先程のヤングケアラー相談支援窓口につなぐ。本人がそこに相談をして話を聞いてもらいやすいような繋ぎをするという動きをします。

これが、教育委員会であれば学校のソーシャルワーカーであったり、地域の民生委員であったり、それぞれが関わった子どもの状況によって繋いでいくという仕組みに、今、なろうとしています。以上です。

代表 よろしいですか。そのほかいかがでしょうか。

そうしたら、その次をまず行きましょうか。「不安を安心へ」それから「安全・安心で遊び続けられる環境づくり」二つを一緒にご意見頂戴したいと思います。

構成員 不安を安心へという中で、終活支援の強化というのを今回は考えていらっしゃるというご説明もあったのですが、私どもの方でも、今、エンディングノートを作って、それを市民の方に配布しながら、この終活を考えているところです。

ただ、今、色んな事業所が参入している中で、市民の方がどこを選んでいいのか、非常に悩むというか、この辺の情報がまだまだ少ないところもあるという印象を受けていますので、そこに行政が関わってくださることで、何か少し見えてくるものがあれば思っています。

具体的に、この終活支援の強化というのは、どういうふうにされていくお考えなのか、お聞かせ願えればと思います。以上です。

事務局 終活支援に関しては、今、社協さんの方で、積極的にエンディングノートの配布を通じた啓発であったり、相談支援を受けていただいたり、この前は、面

談会を初めて開催して、結構反響が大きかったということで、NHKなどでも放映されて、市民の方からの問い合わせも多かったと聞いております。

一人暮らしの高齢者が増えていて、そういったニーズもあるという状況で、今は、社協さんに基本的にはお任せしてやっているところなのですが、市としても、そもそもニーズの把握や、今後どういうふうに進めていくのがいいのかなど、そういったことをまず検討しないといけないと思っています。

終活に関しては、いろんな業者さんというか民間の会社さんが、現在、葬儀社さんとか、それぞれ色々やられていると思うのですが、その辺の実態など、まだ私どももきちんと把握できてない部分があります。まずは、その辺の実態の把握であったり、ニーズの把握だったりとかいうところから始めて、市としても、社協さんとしても、どういうふうに進めていくかというところを、一度関係者が集まって検討する場というところから始めないといけないかなど、現在のところは思っております。

構成員 今、ご回答いただいたように、民間がどんどん参入している中で、なかなかその状況が掴めてないところもあると思うので、その辺をまず実態把握をしていただけるというのは、非常にありがたいと思います。

私どもも相談窓口をやっているので、その辺を協議していただき、市民の方が安心して暮らせるような、そういった終活の窓口ができればなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

代表 地域リハの新しい項目が入っていますけど、いかがでしょう。

構成員 具体的には、73ページからのところで三つの取り組みを挙げていただいて、医療機関のリハ専門職を地域に派遣する体制づくりですが、大変驚異的に進んでいるなと感心しているのですが、ちょっとお願いというか、検討していただけることになるのでしょうか。

成果指標に、運動機能の低下のリスクの高い人の割合だけが上がっているのですが、全体的に地域リハビリテーションイコール機能訓練、運動器のリハというイメージが強すぎるということが、常々私の気になるところです。

施策の方向性には、入退院を繰り返して高齢化する人達の疾患の中で、今回、内部疾患を挙げていただいているようでありがとうございました。認知症等も含めて、複雑な生活障害を有する高齢者の割合として、成果指標の二つ目に、できましたら「認知症や内部疾患等による心身機能（生活の質、身体活動性）が低下

している高齢者の割合（増加から減少へ）」を加えるというところでご検討いただければと思います。

代表 賛成です。特に、やはり認知機能の問題と転倒の問題は関係ありますし、高齢者の場合、色んな要素が複合しているというのが基本だろうと思います。ぜひ検討をお願いしたいと思います。

構成員 ちょっとお聞きしたいのですが、先程の終活で、エンディングノートの啓発が入っているのですが、実際どうですか。僕らからすると、患者さんは、やっぱり死をイメージする方がほとんどなのです。本来は、死に向かうためのものではなく、今までの人生を振り返って、今後どうするかというような、ある程度前向きなイメージで作るものなのですが、どうしても、エンディングノートという言い方が、ちょっと負のイメージが強いので。

それともう一つ、この資料を見てちょっと驚いたのが、ACPをしている人の割合が32.8%ということで、これも僕ら医療現場の実感からすると、すごく多いなと思います。なかなかここまでACPが普及しているとは思っていません。

今現在は、北九州市の医療資源というのは、一定程度の余裕はあるのですが、これから高齢化がさらに進展して、働き方改革が来年4月から始まってきて、結局、医療を取り巻く環境というのがちょっと変わってくるのです。そうすると、今、維持出来ている医療提供体制が確保できるかどうかということもあって、今後は、結局、市民の受け皿として、在宅で過ごすというか療養というような形を選択肢として選ばざるをえなくなってくる。その中で、在宅医療というのがあるわけですが、それをする上では、僕らは、やはりACPを導入して、患者さん中心の医療を提供できるように構築していきたいと思っているのですが、医師会の中でも、このACPというのが普及してないので、いかにこれを一般の市民の方々に理解をしていただいて、早い段階からACPというものを、こう考えましょうというようなことに取り組みを進めていきたいということで、これは行政の方とも協力して普及啓発を進めていきたいというふうに思っているところです。

代表 ご意見として頂戴したいと思います。

構成員 今のご意見でエンディングノートの話を、少しいただいたところなのですが、確かにエンディングノートと言ってしまうと、やはりイメージとしてあんまりよろしくないなといったところで、私どもが作っているのが、内容はエンディ

ングノートなのですが、タイトルは「私のこれからノート」という、ちょっと前向きなタイトルをつけて、社協だとか区役所の方でも無料で配布をしております。

これは、高齢期の、できれば早いうちに作られるのが、前向きに色々考えられるのかなど。終末期に近くなってからでは、なかなか難しいところがあるかと思しますので、早い段階から、これからの人生を考えていただく、そういったツールにということで作ってございますので、関係者の皆様も、何かそういったところでご活用いただければと思います。以上です。

代 表 項目ごとに少しご意見いただきましたが、全体を見ていただいて、ぜひ。

構成員 全体を見て、今、人手不足というところが、どの職種も、もうやってきていると思います。その中で、この北九州モデルの推進という78ページのところに、今、医療・看護界なのかもしれないのですが、DXとかICTとか、言葉が先取りしているのですが、そういう推進というのが、医療界の中で、よく学会でも話題になっているところです。こういう相談窓口にしても、たくさんの相談窓口があって、とても素晴らしいなと思います。

ただ、その場所に行かないと相談できない。ACPにしてもエンディングノートにしても、行って誰かに手伝っていただかないといけない、という現状があります。ここにも記載しているように、スマホの普及率は高齢者42%。80代の高齢者の方でもスムーズにスマホを使えるような時代になっています。働き方改革も考慮し、自宅にいても相談できるような、この業務効率の78ページに書いている、少し具体的な取り組みや施策の一部のところに、これが北九州モデルであるということなのではないでしょうか。何か機械やSNSを使ってなど、またDX推進など、今後、必ず人手不足は課題であるという話は毎回出てきます。具体的な方向性とかいうのはあるのでしょうか。予算がかなりかかることになるので、回答しづらいとは思いますが。

事務局 先進的介護システム推進室で、今取り組んでいるのは、まさにロボットだけじゃなくてですね、ICTを使ってどういうふうに介護職員の人が、例えば記録の簡素化ができるとか、そういったような事務効率という視点を入れてきているような状況です。

国も、今から科学的な介護を進めていこうということで、本人の状態像を記録し、その記録に基づいて、次の予防につなげていくような、そういうイメージを国は持っているのですが、できればそういった部分も将来的な視野に入れて、介

護現場の方が、人数が少なくなっても回っていけるような体制づくりを、このDXを含めて、当然盛り込んでいくということで考えています。

事務局 ちょっとだけ補足を。北九州モデルについて、先進的介護システム推進室からは、仕事を整理する中で余力を生み出すという、ICT活用の手前のところで、製造業でいう「カイゼン」の手法を使う部分があると聞いています。

私ども介護保険課からも、例えば、科学的介護というキーワードが最近とみに注目されてきていますが、これが介護に関するエビデンスを作るのか、未知数と思いながらも、一つは介護事業としてしっかり制度内の収益をしっかりと取っていただいて、それを再投資する中で、人材確保とかICT投資などが出来ることが一つの理想と考えています。

先程、白木構成員からお話がありましたが、北九州市の居宅介護支援だけを見ると、全国でもトップクラスで単位数を算定している。平均要介護が低い割には単位数が算定出来ている。

一方で、施設は、医療との住み分けの問題などもあるのですが、平均要介護度が比較的低く、1件あたりの給付単位数も決して高くない。

こういうことが、もう少し分かればと思って、例えば医療・介護の役割分担の中でどういう方を施設に受け入れるか、というのは、なかなかコントロール出来ませんけれども、介護報酬の中で用意されているいろんな加算を算定していく。良いケア、良い加算、それから高い収益、というようなことにも手がつけられないのか、研究したいと考えているところです。

構成員 今のお話の中で、北九州モデルの推進だとか、先程斎藤課長がおっしゃったように、介護報酬のところなのですが、実は介護報酬の中の事業所のですね8割が人件費なのです。特に、人がいないので、今、派遣社員さんとかお願いすると、ICTを進めるにしても、財源的にかなり厳しくって、人件費が8割を占めてくると、本当に労務倒産していく事業所がもう本当にたくさんあって、次の介護報酬で本当に減額されると、多分北九州の中にもかなり閉鎖していくところが増えてくるのではないかということなので、この先進的なことの以前に、もう少し介護保険事業所さんの体力を、きちんと元のように戻していかないと、本当に卵が先か鶏が先かの議論で、保険あってサービスなしの現状になりかねない危機的な状況であるってことを、ぜひご理解いただきたいなというふうに思います。

代 表 この先進的っていう言葉と人材養成はセットだと思います。つまり先進的

なことをこなせる人材を育てるっていう視点を常に持っておかないと、ICTもAIもそれはどんどん進むわけです。けど、人がそこにフィットして使いこなせない、介護現場では意味がないと思いました。

その他いかがでしょうか。よろしいですか。

それではですねもう一つありまして、プランの名称について、次期高齢者プランの名称について簡単に説明をお願いします。

事務局 議事（2）のうち、次期プラン名等について、資料4－9に沿って説明

代表 難しい問いかけですが、何か皆様方から、今の時点で、何かお知恵がありましたらお願いいたします。いかがですか、キャッチフレーズですけど。

構成員 プラン名称、幸せを感じるまち。高齢者の幸せって何でしょうか。皆さん。
いや、幸せって何ですかね。高齢者が幸せっていうのはどういうことなのでしょうか。どうでしょう、皆さん。

代表 宿題でもあり、今、行政の方から出ていますが。

事務局 すいません、直接な回答になるかどうかわからないんですが、今回は先程ご説明させていただいた、この三つの目標というか、できるだけ健康長寿で、地域共生社会とか、自己決定といった、こういう人との繋がりとか、その辺のことを北九州市としては、幸せの3要素というふうに考えて、今回、この名称とかビジョンを考えてみたのですが、いかがでしょうか。

構成員 それで、高齢者が幸せになるのでしょうか。それなら、この幸せを感じるまちという名称でもいいかなと思います。

代表 今の質問をどうするのかって、最後に幸福度をどう評価するかっていうことも繋がってくるのかなっていうことですか。

どうぞざっくばらんにご意見ありましたら。よろしいですか。

そろそろ時間も来ていますので、ひとまずこれぐらいでよろしいでしょうか。そうしましたら、本日の報告・議事は終了となります。